

第一章 調査の概要

第一章 調査の概要

この章では、本調査の目的・内容・方法等、実施過程（手順等）及び回答者の属性などについて記します。

第1節 調査の目的・内容・方法等

1 調査の目的

この調査は、市民の人権・同和問題に関する意識の現状を把握・分析し、2015年度（平成27年度）調査（以下「前回調査」）との対比を含め、今後の人権教育・啓発に関する施策を有効に進めるための基礎資料にすることを目的としています。

2 調査の内容

- (1) 人権一般について
 - ①法令などに関する認知度、差別の根底にある社会構造、忌避・迷信などに対する意識
 - ②教育・啓発・学習効果
- (2) 同和問題（部落差別）について
 - ①同和問題（部落差別）の認識、偏見や差別意識
 - ②教育・啓発・学習効果
 - ③同和問題（部落差別）への対応、具体的行動

【巻末付録】 「人権に関する市民意識調査」調査票

3 調査の方法

- (1) 調査地域.....大分市全域
- (2) 調査対象.....住民基本台帳に記載された18歳以上の市民
- (3) 調査対象者数.....3,000人
- (4) 対象者の選定.....層別無作為抽出
- (5) 調査方法.....郵送法（郵便による無記名式調査票の配布・回収、督促1回）
- (6) 調査期間.....2021年（令和3年）1月21日～同年2月11日（消印有効）

4 調査結果の集計分析

- (1) 集計.....（株）日建コンサルタント
- (2) 詳細分析協力者.....奥田均（近畿大学名誉教授）

第2節 調査の実施過程

1 調査対象の設定・標本（サンプル）の抽出

調査対象者については、2020年（令和2年）9月末現在の住民基本台帳に記載された18歳以上の市民を対象に、性別、年齢別、地域（本庁・各支所）別に、人口構成に即して3,000人を抽出しました。

その内訳は以下のとおりです。

(1) 2020年（令和2年）9月末現在の住民基本台帳（18歳以上）

男 184,216人（48%）

女 197,441人（52%）

計 381,657人

(2) 調査対象者数

年 齢		10歳代 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合 計	前回調査
市全体	男	222	217	279	221	231	277	1,447	1,444
	女	210	218	280	240	260	345	1,553	1,556
	計	432	435	559	461	491	622	3,000	3,000
本 庁	男	97	98	124	102	97	104	622	614
	女	95	100	127	112	109	139	682	683
鶴 崎	男	37	40	48	33	39	42	239	231
	女	35	40	47	35	44	50	251	243
大 南	男	11	10	14	15	16	17	83	84
	女	11	10	14	17	16	20	88	88
植 田	男	32	30	43	33	40	64	242	252
	女	31	32	44	37	49	76	269	279
大 在	男	20	17	20	14	11	11	93	89
	女	15	15	17	13	10	13	83	80
坂ノ市	男	8	11	13	8	8	10	58	54
	女	9	10	12	7	9	12	59	55
佐賀関	男	2	2	3	3	5	10	25	30
	女	2	1	3	3	6	12	27	33
野津原	男	1	1	2	2	3	4	13	14
	女	1	1	2	2	3	5	14	13
明 野	男	14	8	12	11	12	15	72	76
	女	11	9	14	14	14	18	80	82
計		432	435	559	461	491	622	3,000	3,000

2 調査票の配布・回収・有効調査票の選定

調査票の配布と回収については、調査の対象になった市民から快く安心して協力していただけるよう、郵送法を採用しました。また、回収率を上げるため、調査期間が終了する前に、対象者全員にはがきによる協力願いを郵送しました。

調査票の有効・無効の判断については、回収調査票のうち、全ての設問において回答が無かった分については、データ分析が不可能であるため「無効」とし、それ以外を有効調査票として確定しました。

以上の手順から、今回は、有効調査票と確定した1,679票を分析対象として分析しますが、単純分析については、性別、年代別に集計することから、性別及び年齢のどちらか一方でも回答がなかった分については、有効調査票から除外し、分析対象を1,631票として分析します。

ただし、選定した票の中には、質問項目の一部に答えていない分もあります。その場合は、その質問に答えた票数が合計数値になります。調査票回収結果は表1-1のとおりです。

表 1-1 調査票回収結果

	今回調査	前回調査
発送調査票数	3,000	3,000
到達調査票数	2,988	2,965
不到達調査票数	12	35
回収調査票数	1,684	1,502
有効回収調査票数	1,679	1,415
無効回収調査票数	5	87
発送調査票数に対する回収率	56.0%	47.2%
到達調査票数に対する回収率	56.2%	47.7%

第3節 回答者の属性

この節では、回答者全体の構成を、性別、年代から探ります。

1 性別

性別分布を見ると男性39.1%（前回37.5%）、女性60.3%（前回62.5%）、その他0.7%と、なっています。

表1-2 性別分布状況

	今回調査		前回調査	
	実数	百分比(%)	実数	百分比(%)
男性	637	39.1	530	37.5
女性	983	60.3	885	62.5
その他	11	0.7	-	-
計	1,631	100.0	1,415	100.0

2 年代別

年代別分布を見ると、70歳以上が24.2%で最も多く、10歳代・20歳代が7.5%と最も少なくなっています。

表1-3 年代別分布状況

	今回調査		前回調査	
	実数	百分比(%)	実数	百分比(%)
10歳代・20歳代	122	7.5	123	8.7
30歳代	193	11.8	193	13.6
40歳代	291	17.8	245	17.3
50歳代	303	18.6	241	17.0
60歳代	327	20.1	331	23.4
70歳以上	395	24.2	282	19.9
計	1,631	100.0	1,415	100.0

第4節 報告書の見方

この節では、本報告書に記した数値の見方や、その数値の算出根拠などについて説明します。

1 集計結果の見方について

- ・原則的に、表の上段に実数、下段に百分比（％）を示しています。また、前回調査の百分比を今回調査の百分比の下の（）内に示しています。
- ・本文や図表中の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入し小数第1位まで表示しています。そのため、各選択肢の比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・複数選択可の設問では、表中の比率は回答対象者数に対する比率です。そのため、比率の合計は100%を超えることがあります。
- ・グラフ中のnは回答対象者数（標本数）を表しています。

2 クロス集計について

クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、2つの設問の回答の間に何らかの関連があるかどうかを調べるために複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

3 スピアマンの順位相関係数について

相関係数とは、2つの変数の関わりを検証するものです。数字の符号（プラス・マイナス）は関わりの方角を示しており、一方の変数の番号が大きくなる（小さくなる）ほど、他も大きくなる（小さくなる）場合、符号はプラスとなり正の相関と呼びます。逆に、一方が大きくなるほど他方が小さくなる場合、符号はマイナスになり負の相関と呼びます。

相関係数の数字の絶対値の大きさは、相関の強さを示しています。数字の右に書かれた「*」や、「**」は、この相関係数が統計的な意味を持つものであるかどうかを示しています。「**」の場合は1%水準で有意である（100回同じ調査を行えば99回が同じ結果になる）ことを、また「*」の場合は5%水準で有意である（100回同じ調査を行えば95回が同じ結果になる）ことを示しています。これが付いていない場合は、統計的な意味を持つとは言い難いと判断されます。

